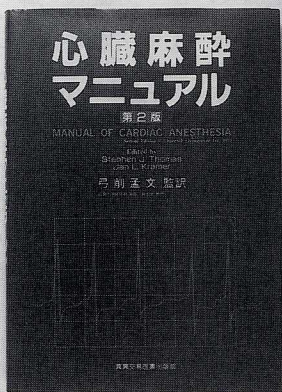




『心臓麻酔マニュアル』 第2版

監訳 弓削孟文

文・弓削孟文



心臓麻酔や大血管手術の麻酔は麻酔管理の中でも特殊な領域であるという感覚は、私たち麻酔科学を専門とする医師においてさへもある。

そして欧米の趨勢として、またわが国の流れとしても特殊な疾患は各疾患のセンターを国の中で設け、その医療機関で集中的に対応をするという分化の方向にある。

しかしながら現状は各施設において、各大学において開心術は行われており、緊急のCABG（冠動脈の狭窄部を他の血管で置換する手術）や大動脈瘤破裂の手術が飛び込んでくることは多い。このことは、心臓・大血管手術の麻酔管理はわが国の現状においては特殊な麻酔科医の知識や技術としてかたづけなくてはならない問題を含んでいることを意味している。

広島大学医学部附属病院は心臓・血管外科手術のみを行う特別な施設ではないし、私自身心臓外科麻酔の専門家ではない。

本書の翻訳を真興交易医書出版の橋内社長より依頼されたときは、実はかなり躊躇した。が、前述のような理由から、われわれ麻酔科医は自分自身の中で特殊な領域をつくってはならないと常日頃より考えている私は、私たちがのような心臓・血管手術麻酔の専門家ではないが臨床麻酔科医であるものが理解しやすい翻訳書を世に送ることは大きな意味があると考え、お引き受けした。

編集者のコーネル大学 Thomas 教授は米国における心臓外科麻酔の第一人者であり、本書は米国のレジデントのガイドブックとして有名な教科書である。私の恩師である Yale 大学の T.M. Kitahata 教授のご紹介で本書の編集者の Thomas 教授からも激励のお言葉をいただいた。

本書は第二版であり、第一版は東京大学の稲田豊教授の監訳で心臓麻酔の専門家として有名な釘宮先生と森田先生のお二人により訳がなされている。今回は私たち広島大学のスタッフ全員で訳させていただいた。序において編集者の Thomas 教授が書かれているように、本書は心臓麻酔を初めて経験する麻酔科医や翌日心臓病の患者を担当することになっていく研修医が、簡明瞭にそしてコンパクトに必要な知識を吸収することができる入門書として利用していただくことを目的とした

ハンドブックである。

この Thomas 教授のお考えが本書の読者に十分に伝わるように訳したつもりであるが、訳本であることからどうしても文章が固くなってしまい随分悩んだ部分も多い。

この訳本を大フォーラムの「自著を語る」に紹介させて頂けることは私としては大変うれしい。医学部の先生方のみならず、興味を持たれた広島大学の先生方に広く読んでいただき、ご批判をいただければ、訳者一同がさらに精進を重ねる一助となると確信する。

真興交易医書出版 B5判・四〇〇頁
九八〇円

プロフィール

(ゆげ・おさふみ)

◆一九七三(昭四八)年

広島大学医学部卒業

◆一九七九(昭五四年)

医学博士(広島大学)

◆一九八二(昭五七年)〜一九八三(昭五八年)

アメリカ合衆国エール大学麻酔科留学

◆一九九一(平三二年)

医学部麻酔・蘇生学講座教授

